

認知課題によるインコ・オウムの体重制御の試み ご協力いただける鳥さんと飼い主さん募集

本調査実験協力依頼説明書

わたくしは、現在、インコ、オウム、フィンチ、ローリー、ロリキートなどの飼い鳥に関するご相談を受け、応用行動分析学（ABA）に基づく方法で解決策をご提案する活動を続けております。一般社団法人アニマルバトンにて、飼い鳥に関するペット後見や見守り、ペット防災などに取り組んでいます。この度、以下の調査研究を計画しております。この調査研究には、飼い主さんや鳥さんのご協力が必要不可欠です。飼い鳥の世界に、新たな見解を投じることが出来る可能性を秘めていると考えています。

つきましては、調査研究の趣旨をご理解いただき、ご協力いただける飼い主さんと鳥さんを募集いたします。

パイロット実験が終わりましたので、今回は本実験に関する募集となります。

調査研究にご協力いただける場合は、お申込みフォームよりお申込み願います。

1. 研究課題名：認知課題によるインコ・オウムの体重制御の試み

2. 研究の目的・意義：

【目的】

- (1) 認知課題に取り組む際の身体的エネルギー消費の増加
- (2) 認知課題に取り組むことによる摂食時間・摂食機会の減少

【意義】

飼い鳥が抱える身体的問題の内の一つに肥満が挙げられます。飼養下で暮らす鳥たちは、労せずして食べ物を得ることができます。また、野生下の鳥と比べると、飛んだり跳ねたり齧ったりなどの動きが制限されたり、日常的に選択する機会も少ないと言えます。このような状況下では、摂取したエネルギーを消費することはできないため、太ってしまうのは致し方ない環境に身を置いているといっても過言ではないと考えます。

飼い鳥の肥満は人と同様、万病の元であると言われています。食べ過ぎ・高カロリー食の摂取・運動不足によって肥満になります。この結果、高脂血症、脂肪肝、高血圧、発情の原因になることから、肥満にならない生活を送らせてあげることは飼い鳥の健康や命に直結すると考えます。

肥満を解消するためには、食事量のコントロールが第一に取り上げられるでしょう。そして、摂取したエネルギーを消費するために運動も必要になります。運動と言っても、家庭内でできる運動は飼い鳥が摂取した分のエネルギーを消費できるだけの環境を整えてあげることはむずかしいでしょう。運動＝飛ぶことが最もエネルギーを使うことから、ダイエットには飛ぶことを推奨されるケースもあるようです。しかしながら、無理に鳥を飛ばせようとすると、飼い主と鳥の信頼関係が崩れてしまうことになりかねません。なぜなら、鳥にとっては飛ぶ動機がないのに飛ぶことを強要されることは、ヒトに対して不信感をつのらせてしまうだけだからです。運動をうまく日常的に取り入れられないことから、食事量のコントロールだけに頼ってしまい、ダイエットを失敗に終わらせる結果になる場合もあります。すでに鳥にとってギリギリの食事量でありこれ以上食事量を減らせない、でも体重が減少しないとなると運動も必要になってきます。多くの場合、食事量のコントロールと運動を取り入れることは飼い主にとっては容易いことではないケースもあり、その結果ダイエットが成功しないという例は多々あります。

そこで、肥満を解消するための新たな方法として、飼い鳥に認知課題を与えることで体重減少がみられるかを正式に調査を行いたいと思い、今回の調査研究に取り組むこととなりました。

これまで約 18 年の間、飼い鳥のコンサルティングを経験してきて、発情抑制や毛引き改善を目的としてダイエットが必要な場合に認知課題（フォージingtイやトレーニング）を与えることがよくあります。そして、これらの鳥たちに体重減少が見られました。この場合のトレーニングは、改善ではなく新たな行動を教えることを指します。新たな行動を教える時やフォージingtイを導入する時は、かえって強化子（ご褒美）が増えることから、通常であれば体重が増加するのは当然のことのように思います。しかし、認知課題を与えられた鳥たちの体重は、一様に維持あるいは減少した鳥がほとんどでした。これらの実体験を踏まえて、正式に調査をすることで、認知課題を鳥に与えると体重減少がみられることが数字として表すことができれば肥満の鳥にも応用していける可能性があると考えています。

肥満の鳥だけでなく、日常的に認知課題を鳥に与えることで、退屈な時間を減らし、知的好奇心にあふれる鳥にとってより充足できる環境作りに繋がるのではないかと考えています。鳥と暮らしていない人がイメージする食餌やケージレイアウト、お世話の仕方などの飼い鳥に対する認識は、長年アップデートされないままであると感じることが多々あります。この調査研究によって、飼い主はじめ、鳥を取り扱うペットショップやブリーダー、メーカー、獣医師などの飼い鳥に関わる分野で、飼い鳥に認知課題を与える必要性に気付き、将来、飼い鳥の世界では当たり前となって鳥と暮らす環境の中の新たなスタンダードとなることに一翼を担っていけることを望んでいます。

このような調査研究にあたって、わたくしだけでは経験と知識が不足しているため、関義正教授（愛知大学文学部心理学科）にスーパーバイザーを務めていただくことになりました。関教授のご助言を受け、将来的に学会発表や何らかの形で専門誌での発表を予定しています。上述の目標が達成されるまでどのくらいの期間がかかるかわかりません。だからと言って何もしないままではいられません。一緒に飼い鳥の世界をよりよくしていくための取り組みとして、ご協力いただけましたら幸いです。

3. 調査研究の方法、手順

- ・調査研究に要する期間：35 日間
- ・時間・回数：お申込みいただいた方に個別にご案内いたします。

〈目安〉

お願いしたい 記録内容	毎日 (35日間の内)	実施頻度 (35日間の内)
体重測定	○	-
通常の餌の量を測定	○	-
動画撮影	×	2回10分程度
画像撮影	×	7日おきに3セット 合計21回
フォージingtイに入れる 餌の量を測定（*1）	×	7日おきに3セット 合計21回
*1の残量を測定	×	7日おきに3セット 合計21回
鳥さんの様子、 気温・湿度・天気記録	○	-

※開始時期、応相談。

- ・調査場所：飼い主さんのご自宅にて
- ・調査内容：鳥に認知課題（フォージingtイ）を与え体重変化などを記録する。

4. 研究対象の鳥種

(1) パイロット実験 ※終了※

セキセイインコ 1 羽

(2) 本調査研究

セキセイインコ 10 羽（2 羽ずつ進めていく予定）

- ① 1 才以上
 - ② 定期健診などで健康であり、感染症検査で陰性の鳥さん
 - ③ 投薬をしていない
 - ④ 病院で適正体重を把握できている（自己判断ではなく）、適正体重を下回っていない
 - ⑤ 過去 2 カ月以上の体重記録がある
 - ⑥ 毎日ほぼ同じ時間に体重測定が可能
 - ⑦ エサの量を計って与えている（※摂取量の計測は不要）
 - ⑧ お申込み時点から過去半年、これから半年以内に引越しや環境の変化がない
 - ⑨ これまで全く、又はあまりフォージングトイやトレーニングを試したことがない
 - ⑩ お申し込み時に換羽の周期などお聞かせいただきます。
 - ⑪ フォージングスピンとフォージングシェイクを使ったことがない
- ※今回は対象鳥種をセキセイインコとしましたが、今後複数種でも比較する予定です。

5. ご協力いただきたいこと

- ① 上記 4 - ①～⑪をご理解ご協力いただたく存じます。
- ② フォージングトイをお持ちでない方は当方で準備いたします。
- ③ 35 日間の記録をつけていただきご提出いただきます。
記録項目：日にち、時間（体重測定時）、体重、気温（体重測定時）、
認知課題の導入・実施状況、鳥さんの様子・体調（換羽、発情、行動）、
その他気付いたことなど
※記録用紙は郵送、またはデータにてお渡しいたします。
- ④ 体重計（スケール）は、0.01g まで確認できるタイプ。
- ⑤ 認知課題の取り組みのタイミングなどは別途ご案内いたします。
※開始時に必ず柴田とオンラインにて打ち合わせをお願いいたします。
※動画撮影について、録画機器は問いませんが三脚などで固定して撮影をお願いいたします。
※認知課題ができるようになることを必ずしもゴールとしていません。
「できる」「できない」に着目するのではなく、その過程も鳥さんと一緒に楽しみながら取り組んでいただけたらと思います。
※鳥さんのお名前は公開させていただくことをご了承願います。

6. 倫理的配慮について

【ご協力者の自由意思の尊重】

- ・ 調査研究協力の同意をおこなった後でも、参加を撤回することができます。また、それによる不利益は生じません。
- ・ 研究に関するお問い合わせは、いつでも受け付けます。

【安全性への配慮】

- ・ 鳥の体調を最優先させてください。少しでも体調がよくない場合は中断していただきます。

【プライバシーの保護】

- ・ 調査研究で得られたデータにより個人が特定されることはありません。
- ・ 本調査により得られた個人情報、本研究の目的以外では使用いたしません。
- ・ 本調査により得られたデータは、本調査研究に関わる者のみがアクセスできます。

7. 研究成果の公表、情報開示について

- ・ 本調査研究は、個人情報（個体情報）を秘匿することを確認した上で、学会、あるいは専門誌において公表する予定です。公表の際にも、上記同様に個人情報の保護について十分に配慮し、個人が特定されることはありません。
- ・ 一般向けにもデータを公表する可能性があります。この場合も、個人情報の保護について十分に配慮し、個人が特定されることはありません。
- ・ 調査研究のご協力に関してご不明な点があれば、いつでもお問い合わせください。

8. 知的財産権について

研究の結果として特許権などの知的財産権、ひいてはそれに基づく経済的利益が生じる可能性があります。この知的財産権の帰属は研究者、あるいは他の共同研究者と協議の上決定され、データ提供者に帰属しません。

9. 謝礼について

- ・ 本調査にご協力いただいた方への謝礼はございません旨、ご了承願います。
- ・ フォージングトイのご提供（お持ちでない場合）。
- ・ 本調査研究を発表する際に、ご協力いただきました鳥さんのお名前を掲載させていただきます。

10. お問い合わせ先

本調査研究について疑問や質問が生じた場合には、下記までお問い合わせください。

研究代表者：柴田祐未子

所 属：一般社団法人アニマルバトンとり部

連絡先：jackpot.allopreen@gmail.com